



香芝市立下田小学校 6年4組 学級文集「みんなて」 第45号 2020.7.20(月)

五〇m走の不思議をさがせ その⑤

ーあてっこペース走 快調ペースー

五〇m走と言うと、初めからがむしやら走ってと中で力がつき、最後はアゴをつき出してゴールする人が多いようです。そうではなくて、自分のペースを知り「うまい走り」を目指すために考えられたのが「あてっこペース走」です。前の時間のゆっくりペースでは、速すぎたり、おそすぎたりして、なかなか自分のゆっくりペースをつかむことができませんでした。3回走りますが、大事なのは、1回目の記録です。1回目に行った所で、思っていたよりも自分の速さが、おそいのか、速いのか判断するのです。

今回は、9割走です。自分の一番速い記録を10としたときに、9の速さで走ります。ゆっくり走ってはいけません。全力で走るのもありません。ちょうど、気持ちよく走れる速さで走るの、このペースをつかんでほしいと思います。

◎9割走の目標タイム

|| 50m走のベスト記録×1.1 || 秒
 ぴったり↓4点
 ± 0.1 秒以内↓3点 3回の得点合計で
 ± 0.2 秒以内↓2点 きそいあう。
 ± 0.3 秒以内↓1点
 それ以外↓0点

今回の快調ペースでは、0点の人は少なかったようです。走った後にペアの人に「速かった」「おそかった」と言ってもらったことで、それが二回目、三回目の走りに生かされたようです。速さを加減して走れる人が増えました。

※今回の最高得点 大武 喜沢、渋谷(10点)、井阪、塚本(8点)、藤岡、川原、井上、久保(7点)
 ※びったり..井阪、渋谷、大武、西野、酒井、塚本、川原

授業の感想から

7/17



楽しかったし、いい運動になった。ピタリ賞も一回あったので、うれしかった。次の体育もがんばりたいです。(酒井)

今日はとてもよく走れたと思う。ピタリを二回も出せたので、うれしかった。二回目、0点だったので、1点が2点は取りたかった。(塚本)

前回は計った時より、得点が増えていて、上達しているなと思った。8割走の時より、8割走の時より、速く走ったり、速く走らないといけないことが分かった。(川原)

前よりすごくよかった。初めはためしに走って、二回目からは意識してみたら、前よりもとても良い点だった。うれしかった。(藤岡)

8割走のときは、おそく走るように意識していたけど、今日やった9割走は、思ったよりも速く走らなければタイムがおそくなったりするから、速く走ることを意識してみた。(渋谷)

・今日、9割走をして思ったことは、ふつうに走るよりもつかれるということだった。今回は少しおそかったの、次はピツタリを目指したいです。(若本な)
・前の8割走よりは、目標タイムに近づけたと思えます。ぼくは、8割走よりも9割走の方が得意です。それは、ベストタイムに近づけたからです。(谷口)
・8割走のときは、5点しか取れなかったけど、今日、9割走は0.1秒以内で走れてうれしかった。速さを調節できてうれしかった。(大武)

・8割走より9割走の方が難しかった。少しおそかったから速めて走ったら、ピツタリだったので、うれしかったです。(井阪)

・前と同じで3点だったけど、自分の9割走がどれくらいだったのか、それよりも速いのか、おそいのかが分かった。次にするときは、ピツタリになりたいです。(岡田)

みんなの日記がっ



□「マネキンを受け止めた」 井上冬花

私は日曜日におばあちゃんの家に行つて、ラスパに行きました。私はおばあちゃんと一緒に服を見に行きました。

色々な服があつて、服を選んでみると、小さい子が二、三人入つて来ました。最初は、あんまり気にしていなかったけど、その子達は、鬼ごっこを始めた。その中の一人の子が、私の近くに来たのですが、その子がマネキンに当たりました。そ

のしよげきで、マネキンが倒れてきました。私は、マネキンの頭を受け止めて、マネキンを助けました。頭を持ったまま、私は固まっていました。すると、店の人が来て、マネキンをもどして、「ありがとうございました。すみません。」と言いました。

マネキンが倒れたときは、心臓が止まるかと思いました。

□「焼き肉おいしい」

中岡樹

前の日曜日、友達と遊んだ後、家に帰つて、ママに、夜飯は何かを聞くと、「焼き肉。」

と答えました。ぼくは、少しショックでした。なぜなら、ぼくは、少しお肉がきらいだったので。肉の白い部分のあぶらがぼくは苦手だからです。

でも、今日、ママの出してくれた肉は、少し上等の肉でした。それに、肉を焼く機械も新しい物で、焼いたら肉のあぶらが下に落ちるようになっていました。ママにどこで買ったのか聞くと、「アマゾンで買った。」

と言いました。

そして、焼き肉をしました。野菜や上等のお肉を焼いて食べたら、とてもおいしかったです。いつもの焼き肉よりおいしかったから、上等のお肉を十五〜二十枚ぐらい食べました。キノコやエリンギも食べたり、ウインナーも食べたりしました。

また、ママにたのんで、焼き肉をやってもらいたいです。

□「修学旅行について」

高山天空

最近、修学旅行についての手紙をもらいました。手紙には、「現時点では実施する方向で考えております」と書いてありました。それを見て、「やったー。」

と思いました。

だけど、今はコロナウイルスがあります。そのことを考えると、

(大丈夫かな。行つてコロナウイルスにかかったりしないかな。)

と心配になってきました。

人生で一回の小学校修学旅行が中止になってしまつと、ショックだし、イヤです。でも、行けるのなら、今度はあまり人と接しよくせずに、気をつけて楽しい修学旅行にしたいです。

□「夏休みにしたいこと」

西野一翔

ぼくは実現するか分からないけど、いくつかやりたいことがあります。

一つ目は、さんしよを育てることです。なぜなら、マーボーどうふの上にかけるとおいしいし、ちりめんさんしよが好きだからです。そして、さんしよの観察日記も書いて、自由研究として提出したいです。二つ目は、一学期の漢字を復習して、さらに、漢字だけでなく、算数、社会、理科の復習もして、二学期に備えておきたいです。

夏休みは短くてできるかどうか分からないけど、できることはしっかりやりたいです。



図工の時間に切り絵を行いました

香芝市立下田小学校 6年4組 学級文集「みんなで」第46号 2020.7.21(火)

係	メンバー	活動内容・活動計画
遊び	磯田、安川、谷口、酒井、西野	遊びイベント計画、おもちゃ、パズルの整理
誕生日	井上、喜沢、下田、久保、澤田、八田	一学期の誕生日会を開く。誕生日カードの作成
図書	塚本、中岡、倉谷、上田、戸川	学級文庫の整理、破れた本の修理
体育	岩本ひ、大武、木村	体育の授業の準備、体操をする
生物	堀川、土家、高山、井阪、佐藤こ、佐藤ふ	メダカを育てる。観察日記をつける。
学習	三瀬、奥谷、渋谷、菅野	学習係で問題を作る。学習クイズを2週間に1回出す。
新聞	岩本な、岡田、藤岡、川原	新聞の月一回の発行。流行っている記事、写真をのせる。

係活動のはじまり

これもずいぶんおくれてしまいました。今になってやっと始まりました。これまで、係活動をする十分な時間が取れなかったのですが、授業にもメドがいたので、ここで活動の時間を取るようにしました。

前にも、お話ししましたが、係活動と当番との関係は、学校というところ、クラブと委員会の関係に似ていると思います。楽しめなくては係じゃ



ないし、計画がなければ係とは言えないでしょう。計画がしっかりしなくては、名前だけの係になってしまいます。また、係活動は、休み時間などを利用してできません。「楽しむこと」を第一に、時間を有効に使って、係活動を充実させてほしいと思います。

みんなの日記から



□「新型コロナウイルス」

藤岡 咲良

新型コロナウイルスは、私の聞いたことでは、中国で発生したと聞きました。中国の人はコロナをわざと発生させたんじゃないのに、中国がせめられていて、とてもかわいそうだと思います。

そして、コロナでとても残念な、変わったのが、給食時間です。今は、マスクを外すと危険なので、給食時間は話もしてはいけなくなってしまうって、とても残念です。

コロナの二つ目は、クラブ活動のことです。私は、二年間金管クラブをがんばってきましたが、一学期にクラブのないのは残念です。でも、こんな世の中だと感せんリスクが高いので、コロナが落ち着くまでは、がまんしようと思います。

コロナでストレスがたまっていますが、ゆい

つの楽しみは、近所のみんなと遊ぶことです。たまに、いろんな人が来て、その時だけは、コロナのことなんか忘れていきます。

コロナの三つ目は、学校で友達と話すことが楽しいことです。前から話をしていた友達といっしょに話をしているととても楽しいです。また、お姉ちゃんや家族、おばあちゃんとゲームをしたり、話したりするのも楽しいです。

早くコロナが落ち着いて、出来る限り元の日常になれたらなと思います、今私たちに出来る限りのことはしようと思えます。

□「予防接種」

喜沢優衣

七月十五日水曜日、二種混合(ジフテリア・破傷風)の予防接種に行きました。コロナが流行っていたので、なかなか病院へは行けず、落ち着いてから行くことになりました。でも、また流行ってきたので、お母さんが、「今のうちに行つとこか。」

と言って、予約をして行きました。

久しぶりの予防接種だったので、とてもきちょうしていました。そして、名前を呼ばれたので、診察室に入りました。注射が用意されていたのえ、さらにきちょうしました。先生は、

「注射の種類の中で、一番痛くない注射だから

安心してね。」

と言ってくれたので、少しきちょうがほぐれました。そして、うでを出して、見るのがこわいので、ちがう方を見ていました。少しチクツとしたけど、一しゅんで終わりました。

また十一月ぐらいにインフルエンザの予防接種を受けるので、がんばりたいです。

□「ぼくと体育」

佐藤郁弥

ぼくは、体育が正直言って、少し好きではありません。その体育で、ぼくが特に苦手なのは、今体育でやっている跳び箱です。なぜかと言うと、助走をつけて乗りこえる所がとても怖いからです。だから、いつも跳び箱を跳ぶしゅん間に、立ち止まってしまふことが多いです。他にも、苦手な種目はたくさんあります。

でも、こんな体育が苦手なぼくでも、できていた時がありました。低学年のころです。このころは体そう、跳び箱を習っていて、ぼくが今苦手な、跳び箱の六段も軽くてできていました。ぼくは、今でも体育の時間、やっていたころのことをよく思い出します。

また、体育があるときは、少し体をきたえて、跳び箱を跳んで、体育が好きになれた、らいいなと思います。

連載「先生が小さかったころ」(154)

「ぜいたく」

小学生のころ、「ぜいたく」と言えば、大阪の阿倍野の近鉄百貨店のレストランで、ハンバーグ定食を食べることが、一番のぜいたくだと考えていました。子どもの多くは、旗のついたお子さまランチを食べるのですが、少し大人びていた先生は、それを食べようとはしませんでした。大人の食べるハンバーグ定食を注文し、そして、残さず食べるのが、ぜいたくだったのです。大阪に出ることなど年に数度しかありません。先生の家では、大阪に出た時に、その帰りに近鉄によってレストランで夕食をすませたものでした。先生は決まってハンバーグ定食を注文しました。家で食べる味とはまた違ったおいしさがありました。小学生には多い量でしたが、ぜいたくな食べ物を残すのはもったいないと言う気持ちが大きく、残さずに食べたものでした(当時の子どもはみんなそうだったと思います)。食べ終わって「おお、みつる。よう食べたな。」とほめてもらうこともうれしかたし、何か一つの名誉と感じていました。

ハンバーグ定食のほかに、「すし」も普段では口にできないぜいたくな食べ物でした。当時は、今のように回転ずしはありません。いつも食べられるようなものではなかっただけに、先生にとっては、ぜいたくなものだったのです。今では、ハンバーグもすしものどから手が出るほどおいしいものだとは思いません。しかし、「残さず食べる」という習慣はずっと残っていて、出された物は何でも残さず食べます。ついたくさん食べてしまつて、このことが太る原因でもあります。この「もったいない」と思う気持ちは、先生は大事だと思えます。これが今の子ども達に欠けていることではないかな？



香芝市立下田小学校 6年4組 学級文集「みんなで」第47号 2020.7.22(水)

跳び箱の授業その⑤ー演技を採点ー

前の時間の続きで、友達の演技を採点することをを行いました。友達の演技を採点することも、跳び箱運動の楽しみ方の一つです。跳び箱は、ただ跳んだら良いのではなく、大きさ、高さ、美しさという基準で採点して行きます。大ききであれば、着地した場所が跳び箱からはなれているほど、大きく跳んだと言えます。また、跳び箱の前方に高くとび出ていると言うことは、それだけしっかり跳び箱をつきはなしていることになります。また、跳ぶときの

◎採点	名前	技(段)	跳び	得点
-減点				
(着地)		(ポーズ)	(演技内容)	
1歩踏み出す	-0.1	不十分なポーズ	両足で踏みきっていない	-0.1
2歩以上踏み出す	-0.2		跳んだ時に跳び箱にふれる	-0.1
手を置く	-0.3		跳んだ時にゆがむ	-0.1
しりもちを驚く	-0.4			
+加点				
★美しい姿勢	+0.1	★遠くまで跳ぶ大きな演技		+0.1

姿勢(ひざが伸びていることとか、脚を閉じたり開いたりしているとか、つま先まで意識されているとか)などは、美しさに関係することです。これらのことを元に、しゅん間で終わってしまう演技に、減点と加点で採点をします。

前の時間、それぞれのグループで採点をしたのですが、大変甘

い採点です。着地できっちり止まっていないうちに減点していなかったり、すぐに加点をつけてみたりと、やっている人にはうれしいことですが、正しい採点とは言えません。

やっている自分には余り分らないので、採点によって、演技の出来不出来が分かってきます。また、演技をした人に、どこが出来ていなかったのか、どこが良かったのかも、伝えてあげてほしいです。

授業の感想から

7/20



・反転系横跳びこしは、二歩以上動いたのが自分でも分かって、くやしいです。次やるときは、もう少しうまくやりたいです。(上田)

・6段の閉脚跳びがちよっと難しかったけど、練習してできるようになりました。とてもうれしかったです。発表会ではもっとうまくできるようにがんばりたいです。(喜沢)

・発表会では、5段開脚跳びをします。良い結果が出せるように、がんばりたいです。(酒井)

・前までは、開脚跳びをしていたけど、思ったより難しく、閉脚跳びの6段に変えました。そして、すごくきれいに跳べました。うれしかったです。(高山)

・閉脚跳びができないから、できるようにしたいと思った。閉脚跳びは体を縮めないといけないか

ら、難しいと思った。次は、もう少し助走をつけようと思った。

(井上)

・前、閉脚跳びをやった時は、補助ありじゃないと出来なかったけど、今回は補助なしでできた。もつときれいに跳べるようにがんばりたい。(川原)
・今日は、一度、6段縦の閉脚跳びをやってみました。すると、初めは余りできなかったけど、と中からできはじめて、うれしかったです。(西野)

(西野)

・閉脚跳びでは、前歯は両手をいっしょにはなせなかったけど、今日は、同時にはなせてよかった。着地の時に、減点されないようにしっかりしたい。(大武)

(大武)

・閉脚跳びが難しく、手と手の間に足が入らなくてできなかった。ジャンプする時に、ひざをおなかに引きつけられない。(倉谷)

(倉谷)

・自分が発表する技は、6段たての閉脚跳びで、それ自体は結構できるのですが、ロイター板をばなしたら、全然できなくなってしまって、発表できるとの心配です。(堀川)

(堀川)

・閉脚跳びでは、着地の時に、体が後ろになってしまふから、もつと、前の方に体をたおして、着地をしようと思った。(安川)

(安川)

・横6段閉脚跳びでは、全然着地ができなかった。次するときは、足をもつと、ふんばって着地をしたい。(井阪)

(井阪)

・今日の演技では、加点はされなかったけど、減点もされなくて良かった。閉脚跳びがだんだんできるようになってうれしかった。(藤岡)

(藤岡)

【考古学のお話⑬】—日本人と犬のお話—

江戸時代になると五代將軍徳川綱吉が「生類憐みの令」を出します。綱吉には次の將軍となる子ども徳松を満五歳でなくします。世継ぎをどうしてもほしかった綱吉でしたが、それ以来男の子は生まれませんでした。ちょうどそのころ、真言宗のお坊さん隆光「子どもが生まれないのは、前世で殺生(生き物を殺すこと)を多く行ってきたからであり、この世では生き物を憐み、とりわけ綱吉は戌年生まれなので、犬を大事にするように」と言われたのでした。(この説も確かではなく、綱吉が隆光に会う前からすでに、生類憐みの政策は始まっていたとも言われています。)

△法令▽

- ・將軍が通るとき、犬やねこをつなぎとめてはいけない。
- ・牛や馬に重い荷物を持たせてはいけない。
- ・幕府の鷹狩り(たかがり)の禁止。鷹の役人は、すべて犬小屋役人とする。
- ・食料として魚や鳥を飼ってはいけない。
- ・野鳥を飼ってはいけない。
- ・病気の牛や馬を勝手に捨ててはいけない。
- ・ウナギ、ドジョウを売ってはいけない。
- ・へび、犬、ねこ、ネズミに芸をしこんで見せ物にすることの禁止。

動物を保護する法令はたくさん出されましたが、犬に対しての保護は大変なものでした。江戸には野犬が多かったのですが、その犬が今までとはちがう扱いを受けることになります。人々も

犬を飼っていたらめんどうなことになると、飼っていた犬を手放しました。そのため、江戸の町は犬だらけになったそうです。そこで、一六九二年、江戸の中野に大がかりな犬小屋が完成します。それまで收容されていた何千匹という犬たちが移動します。犬小屋でゴロゴロねている状態になったため、たちまち病気にかかり死ぬ犬も出たようです。

このような法令が次々と出され、江戸の人々にとってはたまったものではありません。犬が子どもを産んで育てなかったために罪になる者、犬を殺したとして死刑になる者、当然犬に対する不満も出てきますが、幕府はいっそう違反者をつりまらします。

この異常とも言える法令は、綱吉は自分が死んでもこの法令を続けるように遺言を残したようですが、綱吉が死ぬと、六代將軍家宣はたくさんの方令を解除します。江戸の多くの人は喜んだことでしょう。そうすると、今までの不満を犬に晴らしたのでしよう。次のような狂歌が残っています。

『犬は泣き民は悦ぶ丑の年』

ながき返報に糞を喰わせん』

(意味)犬は泣いて、人は喜んだ丑の年(宝永六年)今までの仕返しに犬にくそをくわせてやろう)

—このシリーズ終わり—

※綱吉はひどい將軍とされてきましたが、今では、動物愛護を進めた將軍としてその評価が見直されています。その話は二学期にしたいと思います。